

平成 29 年度

第 2 回

亀山市立図書館整備推進委員会会議録

平成29年度 第2回亀山市立図書館整備推進委員会会議録

日時 平成30年2月1日（木）午後2時開会

場所 亀山市役所 本庁舎3階 大会議室

出席者 服部教育長、横山委員長、中井副委員長、川口委員、豊田委員、若菜委員、鈴木委員、片岡委員、桑名委員、川辺委員、栗本委員、上田委員、坂口委員、佐久間委員、松本委員、亀渕委員、嶋村委員

欠席者 山本委員

事務局 亀山市教育委員会生涯学習室 亀山室長、小坂
亀山市立図書館 井上館長、若林
(株)東畑建築事務所名古屋事務所 高木設計室長、柱主任技師

傍聴の承認

【教育長】 傍聴者について承認いただけるか。
【一同】 異議なし。
【教育長】 傍聴を認める。

■開会

【事務局】 第2回亀山市立図書館整備推進委員会を開催する。配布済の資料を確認する。

1. あいさつ

【教育長】 前回の委員会開催より2回のワークショップをすることができた。基本構想で読書活動によって高まる知の拠点、広がる学び、学びの成果を体現できて、交流を楽しめる。そういった学びの場からつながる場へという基本構想の理念を念頭に置いて、ワーク

ショップを開催。市民の皆さんの予想以上に熱心な意見を聞くことができた。そこには愛知工業大学の中井先生のミニ講義、業務支援の東畑設計事務所のファシリテーター等がうまく機能したことで活発な意見が出たと感謝している。要約したニュースレターに目を通していただきたい。本日は図書館の附帯機能について活発な議論をしていただきたい。

【横山委員長】 図書館整備はこれからいよいよ我々の意見をまとめていく段階に入った。春の暖かい頃にいい意見がまとまるといいと思っている。今日はいろいろな意見を踏まえておおよその図書館の附帯機能について委員会としてまとめていきたい。

【中井副委員長】 前は欠席させていただき、今回から出席させていただく。私は図書館の建築の研究を20年ほどしている。滋賀県、愛知県、長野県や大学、学校図書館などの研究をしている。今やっている研究について後ほど時間をいただいて紹介したい。

【事務局】 前回欠席した委員より自己紹介をいただきたい

【松本委員】 亀山市建設部長

【亀淵委員】 亀山市建設部参事

2. 会議録、委員意見の確認

【横山委員長】 事前に配布された前回の委員会の会議録について、修正があれば教えていただきたい。

【川辺委員】 単純な間違いだが、7ページめ、私の発言で議会図書館との連携で例に挙げたのは、「鳥羽市」である。

【事務局】 修正させていただく。

【横山委員長】 他になければ、何かお気づきの点があれば事務局の方へお願いしたい。次に、この委員会に関して、坂口委員、嶋村委員から意見をいただいている。この件に関して補足等あればお願いしたい。

【坂口委員】 特に補足というほどでもないが、図書館の基本として市民の方に気持ちよく使っていただけるというのを期待している。

3. 報告事項

(1) 図書館市民ワークショップの実施報告について

<事務局より説明>

【横山委員長】 何か質問があればお願いしたい。

【一同】 意見なし。

(2) 最新の図書館の状況について

<中井副委員長から講義>

【横山委員長】 中井副委員長から講義をいただいたが、何か質問があればお願いしたい。

【若菜委員】 「図書館は使いこまれて熟成していく」とはどういう意味か。時代が変わって対応が変わるという意味なのか。

【中井副委員長】 東日本大震災で津波で流された図書館をみると、すごいあったであろう歴史とか文化とかが流される。そして今から何をするかというと、地域の資料を今から集めていくことになる。地域の資料は自分たちが20年かけて集められたコレクション。図書館の司書が本を選ぶときに、今読む人たちの本を選ぶことも当然あるだろうが、その本が20年後に読まれるかもしれないということを考えて買うべきであってほしい。蓄積されて構成される図書館。資料の構成のことで、建物は古くなっていくので、みなさんが愛着を持って飽きのこないデザインが必要と思う。

【横山委員長】 図書館は歴史を積み上げていくもの、一方、図書館だけが独立して存在するわけではない。市の公共施設全体での図書館の位置づけもある。また、民間活力の活用も重要だ。その辺りについては市の財政部長の上田委員から説明をお願いしたい。

【上田委員】 亀山市の3月補正予算をちょうどしめて29年度末で、財政調整基金が最終的に35億2千万円。来年度の予算状況をみていると民間企業も亀山においては景気が良くなっている。約9億5千万ほど取り崩して来年度予算を編成する。大きな要素は駅前とか野村布気線、川崎小学校、という状況。今後の状況は、国が法人市民税を直接市へ払っていたのを、企業が立地している所としていない所の差が激しいので、一部を国が持って行って、再分配するやり方。消費税交付金もいったん国へ集めて再分配するというように変わってきていて、亀山にとっては企業進出の大きな所で財政力の豊かな所にとっては少しマイナスの要因が出てくるのではないか。今後図書館事業も駅前も含めて、なかなかたいへんな状況が続いてくるだろう。役所が発注すると1㎡あたり40万円ぐらいかかってくる。民間との違いでPFIとかリースとか、民間にさせていただくと、どちらかというとしがするより安くなる。建設コスト、ランニングコスト含めると、国の方は今まで指定管理といって維持管理を任したらと言っていたのが、全体を任すようなやり方を自治体に求めている。関町と合併したときの合併特例債も今度駅前で使い切ってしまう。亀山にとっては厳しい状況が続いていくだろう。しかし、シャープの裏に住友商事が10区画完成し、そこへ企業誘致を進めていくことで鋭意努力していく。

【横山委員長】 いろんなこと鑑みながら図書館を考えていかなければならない。もうひとつ、関連して亀山駅周辺事業について亀淵委員より

説明をお願いしたい。

5. 報告事項

(3) 亀山駅周辺整備事業の概略について

【亀淵委員】

〈資料2より説明〉

【横山委員長】

何か補足等があれば、松本委員お願いします。

【松本委員】

市の財政状況も含め、地域の住民と協議しながら順次事業を進めて行きたい。

【横山委員長】

何か質問があればお願いしたい。

【川辺委員】

整備推進委員会も基本計画までに4回、かなり急で市民ワークショップも立て続け、そもそも基本構想には市民の意見は反映されていない。これは投書箱等の意見を聞いても市民は移転に反対している。駅前の事業そのものが当初の予定より遅れている。私は総合計画の審議員にもなっていて、当初の予定では、年内に組合は設立。それが都市計画の決定も1月中にという話も聞いていた。ということは駅前の整備の進行状況が遅れているということを利用するわけではないが、3月に基本計画を無理無理作るというのは、駅前も延びては来ているので、もうちょっと基本計画を立てるのも丁寧にやる時間ができるのではないか。駅前に併せて図書館をというのをやってしまうと、それこそ30年40年先まで見越して、財政状況が厳しい中で、開発事業のテンポに合わせてというのは無理があるのではないか。この後、3月に基本計画をとると、パブリックコメントや市民への説明に提案できたが意見を聞く暇がないということで、基本計画の完成までを、最初に配ってもらった資料では、基本計画は8月となっている。駅前のビルの基本計画の時に、できるのが8月だと思う。それと平行しながら。

【事務局】

駅前との関係については図書館をつくるにあたって重要。ご指摘のように、基本計画は当初来年の8月を目標にしていた。議論を重ねていく中、建物の設計というのに十分な図書館としての意見を反映したいということから、まず、基本設計としての進捗に合わせて図書館側の意見を含めていい形の図書館をつくっていきたいと思っている。そういった思いから3月に案をまとめた。ただ基本計画ができてすべてではないと考えている。中井先生からの話もありましたが、いわゆる運用面や管理面、どういう形で市民の財産とするか。また中身の部分については来年度以降ワークショップを重ねてひとつひとつつくり上げていきたいと考えている。

- 【川辺委員】 基本計画を3月につくるけど、それを基にしてビルの設計をしてもらい、中身が可能な形でしていく。基本計画で決まったことは動かせないということであれば、仕方ない。
- 【教育長】 この委員会で、いったん3月を目途に基本計画をまとめていただくが、最終はできれば3月議会やそれ以降の教民委員会等にお示し、最終的には教育委員会で図書館についての基本計画は決定に至ると思う。3月の教育委員会で決定までいけるかという疑問は持っている。したがって駅前のビルの設計に間に合わなくては意味がないだろうというはあるが、駅前の進み具合を見ながら、教育委員の意見もいただきながら進めていきたいという思いがある。
- 【横山委員長】 こうした開発というものは、スケジュール通りにはなかなか行かない。駅前開発の進捗状況をみながら進めていかなければならないが、どういう状況になっても、こうした場合の図書館はどうあるべきかという計画、ある程度の方向性というものはやはり必要である。

4. 協議事項

(1) 亀山市立図書館整備にかかる附帯機能について

＜事務局より説明＞

- 【横山委員長】 資料3-2で、ギャラリーの部分が薄くなっていて削除する部分と書いてあるが、どういう意味があって削除したのか。
- 【東畑】 以前お出しした資料から整理していき、今の整理としては、地域発信エリアという所に市として展示してはどうかとなった。
- 【横山委員長】 前回から大きく変わった所を教えてほしい。
- 【事務局】 想定面積が入れてなかったもので、それに即して区分と機能について再配分した。その中で先ほどのギャラリーとかエントランスだけでなく学習エリアであったりとか想定できるとしている。施設機能面に関しては、少し細かな言い方で、あくまでも仮の名前をどういった表現にするかという形で、展示スペースであるとか、カフェであるとか子育て支援の設備であるとか、具体的にどういったことをする場であるかということについてのネーミングを入れた。
- 【横山委員長】 限られた時間であるので、この委員会の時間後も意見をいただきたいが、可能な限りこの場で意見をいただきたい。
- 【片岡委員】 この面積に対して、充実できるのか。こういうことが重要だが、図書館に強く求めることができるのか。中途半端になるようではいけない。

【事務局】

想定面積については、基本構想ではこのように示したということで、この附帯機能等、審議をいただいた後、これからレイアウト、ゾーニングが再整備される中で、変動するものと理解している。これがありきの数字ではないと考えてほしい。

【川辺委員】

ワークショップの意見で、赤字が入れてある例えば資料3の飲食物販って書いてあるが、これは無理。飲食というのは人も配置、意見はいろいろ出ているが、どう考えても3000㎡で本来の図書館機能、24万冊という資料を充実させるというところに力を入れるできで、どの段階でこれはできません。意見としていいけどできませんというのをワークショップメンバーに伝えるとか、今日は、これはやっぱり無理ですというべき場なのか。ここで意見を言っておいて、3月に基本計画ができたときに言うのか、その辺、どこまで言ったらいいのか。

【事務局】

今日、今言っていた意見をだしていただき、おそらく今日結論まではいかない。飲食わかるけど無理じゃないかという意見をいただき、次回の委員会の時にレイアウト、全体のゾーニングというものをお示しして、やっぱりこの部分は入れてほしいという議論をしてもらいたい。今日はそういったことを事務局で加味せずに資料を出しているの、そういった意見をちょうだいしたいと考えている。

【鈴木委員】

理想的な使い方をされていると思ったが、川辺委員が言われた通り、限られたスペースで、楽しいなとかワクワクしそうな図書館づくり。資料の中で図書離れと言われてるけど、最近話題の本もあって意外と増えていると思う。

【若菜委員】

いろんな附帯施設が書いてあって、今日は、ここに書かれてない附帯施設を教えるという場なのか、ここに書かれてある内容で例えば多目的スペースならこのぐらいのこういう形のスペースが欲しいという意見を求められているのかわからないが、その中で私は中学生と高校生の保護者なので、利用の方法を考えると学習室はぜひ入れてほしい。学習室は静かなのもいいが、ある程度音が入っていても気にならない、逆に人の目がある方がやっぱり、自分に集中できるということも聞くので、静かな区切られたスペースというよりも、日なたで少し座ってできる部分があったりとかそういうのを造るといいかと思う。また駅前にできるということであれば高校生の利用も増えると思うので、家庭で勉強しにくいという子もいると思うので、その点も考えてほしい。

【中井副委員長】

一宮市は図書館ゾーンの中に学習室があり、今まではそういう造りが多かったと思う。塩尻は外に出して、図書館の中にはなくて、会議室のような所が何も入ってないときは、学習室とし

て使えて、予約が入っている場合は会議室として使う。そうじゃないときは、共用分を使う。そこは飲食ができる。こもってやりたい人と大学でもそうだが、ラーニングコモンズと言ってグループでディスカッションする場所を全国の大学で造っている。そこで調査するとラーニングコモンズの中で一人で勉強している人が7割いる。結局、ざわざわしている中で勉強したい。物音も何もないシーンとした中でやりたい人、多分、場所をいくつか用意してあげることが大事。これだけとかというよりは、少なくともいいのでいろんな場所を用意して欲しい。後は彼らが選択して使う。

【若菜委員】

小さい町とかに行っても、窓際で、こういう所でも勉強しとる子がいたり、新聞読んでいるおじさんとか、どこにも場所は見つけて使う。最初にあった塩尻のようなイメージをしてもらえるといい。

【豊田委員】

資料にはいろいろ書いてあり、それもいいが、結局それが、読書に繋がるというのを考えて欲しい。それがいい図書館になるということを考えてほしい。

【川辺委員】

若菜委員が言われたヤングアダルトコーナーについては同感。志摩市は学習室を作っていない。志摩の図書館は勉強だけの場を設けていない。これ全員でやる公共施設に本当に必要かということも考えていかなければいけない。最近ドイツなんかは、延滞に課金する。つまり、延滞するということは、公共で買った資料を他の人に使えなくしている。有料化することも出てきているという。何がいいかと言うと、長い目で見ると高齢の方の利用が増えるだろう。高齢の方も一人で読むっていうのもあるが、グループで話しあったり、例えば、最近、ある書店の奥でやるというのがあって、そういう利用できるスペース。部屋割りをされた所を申請して決まった時間にするとなると、空いてなかったりとか、そういう学生さんも6人がけの机とかでワイワイできるような、ちょっとしたサークルとか読書会ができるようなスペースが欲しい。閲覧はやはり静かな所がほしい。いろんなところでいられるのがいい。

【桑名委員】

附帯機能で、飲食カフェは図書館の附帯施設の中に含める必要があるのか。別に駅前の建物を図書館に全部するわけではないので、地権者の我々が組合設立して、ゆくゆくは組合解散なので、まちづくり会社とかそういうものを造っていかなければならない。民間としてやれるもの、当然利益を上げてやっていけるようにしなければならない。市民のワークショップの意見をみんな取り入れるのか取り入れないのか。多目的スペースの利用についても、従来から言えば、イベント。JRの駅サイティング祭をいっ

たん中止して、再度市民に提供できるイベントを考えなくてはならない。地元ではいろんな意見も出ている。歴史博物館と連携した展示、閲覧とある。歴史博物館の2階に亀山の城下町のジオラマが置いてある。それを見て駅前に帰ってきた人は感動される。なんであんな人が集まらないところにあんな立派なものがあるのか、駅前におろしてきたらどうか。あの大きさでなくとも2分の1でも3分の1でもいいから東畑さんに寄付してもらったらどうかという意見もある。地元の方で昨年亡くなられた方で、ふるさとミュージアム。日展で何回も入賞されている人がいる。展示できるスペースがないのかという話もある。若いお母さん方は、他所から来た方で子どもと一緒に行動する時に、子どもを置いて美容室に行けない。都会で美容室の隣に有料の託児所がる。亀山にはない。図書館で親が美容室行ってる間に子どもを見てもらってる施設として考えて欲しい。ワークショップを2回、整備推進委員会も2回出席しているが、私は板ばさみの状況ができてきた。まちづくり協議会では会長をしている。図書館の市民ワークショップや整備推進委員会でどんな意見が出ているのかと聞かれる。駅前に住んでいる住民の皆さんから、みんなはどう思っているのかと感想を聞かれる。正直に言っているのかわからない。いろんな意見が出ますと流すが、辛い。明治になって駅が開発されて桑畑ばかりやった。製糸工場があって、それから代が変わって今住んでいるのは私たちで、他人ではない。確かに立派な人たちが議論してもらっていいものができるだろうが、実際住んでる俺たちは土地が無くなって。高い所から棒が降りてきて駅前誰の土地に誰が建てるの？という意見も出てきている。個人的に法的にしてかなあかんという気持ちは持っていますが、あまりそれこそするどい竹槍でつつかれると、なんじゃという風な気になる。非常に今複雑な気持ちになっている。先生方や専門の方の話を聞いていると確かに、この機会を逃したらできないと思っているが、中には不承不承という人もまだみえる。みんなで力を合わせてやりましょうと進んできてるので、みなさんには理解してもらおうように言っているが、あまりにも心無い地元の人を蹴飛ばされてまで何で協力するのやという気持ちをお持ちの方に頭を持ち上げてくる方も最近は出てきた。ですから、その点もちょっとご配慮いただきたいと感じる。

【栗本委員】

この図を見ながら、まず静と動の部分があって、まず図書館というのは本来、学習したいという気持ちがあるという静の部分があって、新しい図書館。小さい子が声を出しても隣の人にうるさいと怒られない、そんな場所。また学習室は勉強する場所は図書

館でなくともいい。駅前の複合施設に学習室を作ってもらって、図書館の本を使って勉強する場が図書館の中にあればいい。後はワークショップのみなさんの意見を少しずつ入れてもらって希望に沿うような図書館ができるといいと思う。あと、小さい子の意見も叶えられるものがあれば叶えてあげれば、喜んで図書館に来ると思う。

【川口委員】

この図はすごくわかりやすいが、今までの図に比べると色分けもしてあるしわかりやすいと思うが、亀山市立図書館として狙うものはないか。みんなの意見は叶えてもらいたいが、児童センターや図書館の役割ということも考えて、テーマがあって、コストパフォーマンスもあると思うので、ある程度考えて造ってほしい。多目的スペースを上手に使って、ある日は学習室、ある時は多目的スペース、ある日は読み聞かせのコーナーという多目的なものでないと、狭い施設でなんの施設やなとなる。あくまでも図書館という施設を考えて、片やパソコン打ちながらいるというのも私も好きなことではあるが、さっきも桑名委員が言われたように、駅前の商業施設になったりすぐ付近にあるということであれば、委ねるということもあって、自販機いくつぐらいのことになっても、物販コーナーあればいいが、近くの商店と共存する形でないと、図書館にあれもこれもということであれば、意見もまとまらないし。

【川辺委員】

川口委員と同じで、どこに力を入れるか。他の施設との関連。市民協働センターみらいなど、市民は無料で使える施設がある。それに図書館に多目的なさまざまな催しで使えるスペースを造る。有料ではなく無料でイベントする施設とするなら、今の学習室、前の展示室の広さが書いてあるが、実際図書館の運営すると、過去の実績からどのぐらいの広さがあるといいのかとか聞いてみたい。

【横山委員長】

限られたスペースであるので、建物だけを捉えて図書館と考えるのではなくて、関係機関との連携も重要である。最終的には亀山市の図書館が何を指すのかということを中心に、現実的な問題を考えながら、案をいただけたらと思う。

【中井副委員長】

基本計画なので、目標を定めるべきものだと思っている。それができる、できないは、行政が最終判断として考えるべきもの。基本的にはこういうものが欲しいといえればいいもの。あまり突拍子もないことは入れない。スペースがどうこうではなく、こうしたことができる。なにがあって、こうしたことができるということを中心にちゃんと書いた方がいい。スペースが欲しい。どれだけあればいいのかではなく、少ないスペースでもこのようなことができ

るというのがあればもう少し柔軟に対応できると思う。それを文書として残す。あまり数値にとらわれない。あと、お金とか面積とかあると思うが、まずはどういったものをしたいのかというのが、こういう場で言ってもらおう。

【横山委員長】

今日、この場で言えなかったことは、また後でもいいので事務局に伝えてもらいたい。

【川辺委員】

3点聞きたい。回答は次回でいいが、1つは、今の図書館の予算を見せてもらおうと、新しい図書館になったら、人も資料を購入する予算もいると思う。単純に見積もって今の3倍はいると思うが、財政状況が厳しい中、そこまで行政が腹をくくって予算はもらえるのか。幹部が出てきてもらっているので、重要と思ってもいると考えるが、少なくとも総合計画の審議の段階では、そのまま図書館に入れ込むという議論は無かったので、市側の覚悟を聞きたい。2点目は、図書館の中に専門家がない。それで整備なのかという意見を聞く。どこの段階で専門家を入れるのか。もしくは、責任を持って継続していく人がいるだろうというのが言いたい。もう一つは、関の図書館の利用が合併後2年後ぐらいで増え始めている。この辺り資料を見ていて気になる。

【横山委員長】

その辺り、整理して次回事務局よりご説明をお願いします。

【事務局】

どうもありがとうございました。

以 上